

詩

夜の駅で立ち止まる

泉

諒

電車が過ぎたあとの風が

私のシャツの裾をかすめていった

あれに乗っていたら

どこか知らない街へ行けたのだろうか

行き先のない時刻表

誰かのヒールの音だけが

夜を確かに歩いていく

自動販売機の灯りが

私の影を細長く伸ばした

それはまるで

ここにいる理由を問いかけるようだった

今日という一日が過ぎていく

まだ何も始めていない気がするのに

息をついて

明日の電車を待っていた

子どもの気配

戸田和樹

あの

木陰の古びたベンチに
今さっきまで

小さな女の子が遊んでいたような

そんな気配だけを残して

花の簪が

もたれ木の隙間に挿してある

女の子はきつと二つ作って

一つは自分の髪に

もう一つで

寂しく汚れたベンチを

飾ったのだろう

ピンクのサツキの花弁の中心に

ヒメジョオンの白と

黄色

そんな色のバランスが

昼下がりにくつきり

映えている

保育所の軒先には

黒いごみ袋を繋げた手作りの鯉幟

金色の大きな鱗が

陽の光を反射して

今にも

子どもたちの気配が

真つ青な空に

昇っていきそうだ

戻つてきた

尾内 甲太郎

ベランダのひまわりのように
からだにいのちが
かみ合わない
どうもこのいのちでは
ない気がする
からだ あちこちむずむずして
このいのちでは
ない気がする
椅子に座っても
どこか座りきれない
牛乳は油っぽくて流しこむだけ
飲むまでにはいたらない

本を読んでもなにも読めない
ただ かまきりのしくみを
たんたんと書いてあるのが
わかるくらい
午後の散歩は
歩けない ただ進んでいるだけ
雲の音は聴こえない鼓膜のゆれ
そのとき
一匹の並揚羽 きまぐれに
こつんとおでこに当たって
そのまま飛びさつた
その夕暮れから
からだにいのちが
かみ合うようになった
このいのちでいいのだと
思えるようになった
汗とともにこびりつく鱗粉を
手でぬぐいとる

雨のしずく

木村 文

雨のしずくを見たことがない

とわたしはあなたに言った

次の日

あなたは隣町まで出かけて行って

降っている雨を空中で捕まえ

釣り糸で結えていくつも手首にぶら下げ

わたしの家まで持ってきてくれた

雨が帰りたくならないように

窓も雨戸も閉めた部屋に

空中で捕らわれたままのしずくを飾った

宙に浮くしずくを見ながら

雨が降る音はベークンが焼ける音なんだよ

とあなたは言った

しずくを見上げながら

食卓の上で古いホットプレートを温めて

わたしたちは閉め切った部屋に籠って

何枚も何枚もベークンを焼き続けた

風景

佐々木 凌

角を曲がるたびに
私にぶつかってくる
暴力的な変貌
知らぬ間に
更地になつているところに
出くわすたびに
私はひとつかなしみを拾う
" ここには何が建つていたつけ？ "
" ここには誰が立つていたつけ？ "
見慣れた風景を
使い古した言葉で点描しては
瓦解を食い止めようとする

忘れることは
そのまま
不誠実なことだろうか？
立ち止まり
振り返り
また歩き出す
つまずくみたいに
戸惑う
" ここには何が建つていたつけ…… "
" ここには誰が立つていたつけ…… "
部屋に帰り
まぶたを下ろすように
カーテンを閉じる
けれど
私の眼球の奥には
つぎはぎだらけの町が
続いている

夏風邪

ぢいこくまごまい

陽光照らす庭の朝顔

喉に咲きたる 熱の華

言葉は触れずに 息に揺れ

右より流る 冷き水

片耳かすかに 痛みます

庭に水打ち 虹ひとつ

陽射しは強く 夏は痩せ

声にも出せぬ 体調に

ただ 静かなる 時過ごす

三日続けて 戻しけり

胃の底深く 波立ちぬ

口に残れる 薄皮が

痛みもなくて 剥がれます

葉を飲めば 少し楽

ぬるき湯に乗せ 身を任す

腹にじわじわ 熱こもり

誰にも告げずに 眠ります

腕の毛なくて 光射す

肌は白くて 冷ややかに

やさしき苦しみ 抱えつつ

夜は静かに 溶けてゆく

鼻から一途 落ちる露

右の喉元 疼きます

耳より奥に ひらく穴

それもわたしの 一部です

虹の記憶は 残りけり

痛みのなかに 咲く光

今日という日は 過ぎ行けど

美しくありし 証なり

透明未満

箭田儀一

ふれるたびに輪郭がずれる

あいまいなままあなたとなりで

私は息をしていた

感情は折りたたまれた紙のように

隅にしわを残しながら一度も広げられず

ただ温度だけが染みていく

擦れあつては削れる音を

誰も聞きとらないまま

私たちは透明未満のままいた

たとえば風だったら

たとえば声だったら

もつと確かに存在できたのか

そんな問いさえ溶けていく

私はあなたの

影にもなれず光にもなれず

ただひとつの名前のない温度だった